



誰も取り残さない船橋市へ！  
無所属・教師7年・ITエンジニア

# さこん 左近りょう通信



## ～プロフィール～

33歳。茨城大学理学部卒業。高校で物理教師として7年勤務したのち、ITエンジニアとして民間企業に勤務。一児の父。飯山満町・七林町スクールガード。

趣味：競技プログラミング、ソフトテニス、サッカー観戦。

## 【重点政策】→詳細は[noteに記載](#)

### ① 誰もが使いやすいITシステムを

若者からお年寄りまで誰もが使いやすい行政システムの構築にむけて、自身の経験を存分に生かして取り組みます。

### ② 安心安全な船橋市をいつまでも

川口市の外国人問題など、他市での治安悪化がみられます。安全とは当たり前にあるものではなく、努力して守るべきものです。犯罪のない地域づくりに向けて尽力します。

### ③ 子どもに最大の投資を

明るいまちの中心は子どもです。子育て支援金の充実・保育士の待遇アップはもちろん、育休後の社会復帰サポートにも取り組み、安心して子育てができるまちに。

### ④ 学校教育現場を疲弊させない

学校の先生は疲弊しています。教育がもっと魅力に溢れるよう、行政の立場からサポートします。

### ⑤ テレワーク推進で多様な働き方を

船橋市から東京に通勤されている方は多いと思いますが、通勤による体力消耗は決して無視できません。市内の環境整備により、共働きの時代に合った働き方を推進します。

### ⑥ お年寄りを社会から孤立させない

デジタル化は恩恵もある一方で、機器に慣れていない人を孤立させていきます。新しい知識や人とのつながりを得られる、生き生きとした老後生活を支援します。

### ⑦ 地方自治を守る

船橋市のことと船橋市民が決める、当たり前の意思決定の権利を守ります。

※今回は、[特に⑥⑦に関連する内容](#)を書いています。

## 【お年寄りの孤独を解消するためにできること】

私はデジタルディバイド（ITを利用できる人とできない人の間に生じる格差）の解消についていつも考えていますが、人に話す時には「誰もが”ビデオ通話”できること」と表現しています。

これほど便利な世の中にあってもなお、「家族と離れていてさみしい」「友人に会えなくてさみしい」と語るお年寄りは少なくありません。

人と人との触れ合いは、生きる上で大きな意味をもっています。そんな中で、画面越しにでも会話ができ、写真やメッセージを送りあえたなら、どんなに心が暖まることでしょうか。



介護は身辺の世話だけでなく、精神的なケアも必要となります。時として、そちらの方がつらいというケースも。**介護する側の負担軽減**という視点でも、取り組む意義が大きいあります。

船橋市には、合計26と豊富な公民館があり(2024年時点)、DX推進計画の一環としてスマートフォン教室なども開催されています。この取り組みを今後も継続していきたいです。

「夫婦の片方が亡くなり、足腰もわるいので、ほとんど誰とも会話をしない」という事例がとても増えました。未婚率は年々上昇しており、誰もが決して他人事ではありません。そんな方にも、「一人ぼっちじゃない、自分は社会の一員なんだ」と実感してもらいたい。その一丁目一番地として、誰もが”ビデオ通話”できる船橋市をめざします。

## 【想定外の有事に、船橋市ができること】

「地方自治法=国と地方は対等な関係であり、地方自治体は自らの責任で地域行政をとりおこなう」という法律があります。

2024年6月に、この地方自治法は改正されました。

「大規模な災害、感染症のまん延その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する国民の安全に重大な影響を及ぼす事態」において、個別の法律に規定がなくても国が自治体に必要な指示ができる

となつたのです。「想定外の緊急事態は法律が決まっていないから、国が指示を出すよ」ということですね。“大規模な災害”“感染症のまん延”はイメージができますが、“その他”的具体例が示されておらず、適用範囲が広すぎることに懸念の声が上がっています。

これを見た時に、「国が戦争などのために悪用しないといいな」という感想を持ちました。グローバル化全盛の現代において、日本の侵略戦争など、世論に支持されるはずがありません。仮に戦争に向かうならば「自国が危機にさらされているから戦争するしかない」と国民をあおるでしょう。実際に近年に起きたイラク戦争も、そのような世論に支えられて進められました。先人の努力の甲斐あって、私たちは80年もの間、平和に過ごしてきました。**この平和を当たり前とすることなく、私たちもまた権力を監視し、守っていく必要があります。**

現在の国政や過去の歴史をふまえて、私は一ヶ所に権限が集中するような法改正は避けるべきだと考えています。「想定しない危機」がもし起きるならば、参議院の緊急集会による決定を待ちつつ、**市民ひとりひとりと距離の近い地方議員がその役割を担うべきです。**

想像に頼る記述が多くなったかもしれません、あと強調するのは、「困った時にこそ手を差し伸べるのが政治家」だと考えるからです。地方自治の精神を尊び、権力におごることのない政治家であり続けるよう、努力してまいります。



4月は節目の季節です。  
皆さんに会いが  
ることを願っています